

学年	中学1年	教科	国語	科目	国語	単位数	5
教科書名	国語 1(光村図書)			副教材名	常用漢字の級別学習コンプリート新装版(京都書房) オールマイティアクティブ国語中 2(康文社) 解いて覚える中学生の文法 (東京法令出版) 漢文名文選故事成語編 (筑摩書房)		
コース・クラス	中高一貫						

I. 目標

目的や場面に応じ、社会生活に関わることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

II. 授業のねらい

- 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す能力をつける。また、相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げていく。
- 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫し、事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く能力をつける。
- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる力をつける。また、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持たせる。

III. 授業の進め方

- 前回の授業内容の復習を前提とし、発問していく形式をとる。その際に電子黒板や iPad など様々なツールを活用する。
- 授業内容は、単元の内容理解を主とし、文章の構成や表現方法を学習していく。
- 初見問題、検定対策など演習の時間を多く取る。また、小テストなど実力を確認できるものを随時取り入れていく。

IV. 学習上の留意点

- 配布したプリントはノートに貼るかファイリングし、整理・保管しておく。
- 積極的に発言し、必要な情報をノートにまとめる。
- 小テストの計画表を確認し、必ず事前に対策を行う。

V. 定期試験 (状況によって変動する場合があります)

- ・1学期中間試験…シンシュン・ダイコンは大きな根?・文法・百人一首・初見問題
- ・1学期期末試験…ちょっと立ち止まって・大人になれなかった弟たちに…・文法・百人一首・初見問題
- ・2学期中間試験…比喩で広がる言葉の世界(詩)・星の花が降る所に「言葉」を持つ鳥、シジューカラ・百人一首・初見問題
- ・2学期期末試験…竹取物語・「不便」の価値を見つめ直す・文法・百人一首・初見問題
- ・学年末試験 …矛盾・少年の日の思い出・文法・百人一首・初見問題

VI. 評価の方法

- 定期試験・学力推移調査…授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができる。
- 小テスト…計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 提出物…積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができる。

Ⅶ. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	・シンジュン ・ダイコンは大きな根？ ・言葉の単位	・定期試験 ・学力推移調査 ・小テスト ・提出物	・登場人物の言動を描いた表現を手がかりにして、心情の変化を読み取る。 ・場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化を捉える。 ・段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。 ・文法学習の重要性を理解している。 ・文節や単語などの言葉の単位について理解している。
	5	・文節の働き ・百人一首		
	6	・ちょっと立ち止まって ・大人になれなかった弟たちに… ・文の組み立て ・単語のいろいろ		
	7	・オールマイティアクティブ ・百人一首		
二学期	9	・比喻で広がる言葉の世界 ・詩の世界 ・星の花が降るころに	・定期試験 ・学力推移調査 ・小テスト ・提出物	・詩の中で使われている言葉の意味を的確に捉える。 ・諷刺表れている物の見方を捉え、自分の考え方を広くする。 ・比喻の表現について理解して、描かれている内容を想像する。 ・場面と場面、場面と人物などの描写を結び付けて、作品を読み深める。 ・筆者の意見とそれを支える根拠の関係を理解する。 ・文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。
	10	・「言葉」を持つ鳥、シジュウカラ ・オールマイティアクティブ ・百人一首		
	11	・古典の世界 ・竹取物語		
	12	・「不便」の価値を見つめ直す ・活用のない自立語 名詞・連体詞・副詞・接続詞・感動詞 ・オールマイティアクティブ ・百人一首		
三学期	1	・矛盾 ・少年の日の思い出	・定期試験 ・学力推移調査 ・小テスト ・提出物	・訓読に必要な決まりを知り、漢文特有のリズムを味わう。 ・その他の故事成語の意味や由来について調べ、体験や出来事を発表する。 ・場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを捉える。 ・伏線に着目することで、作品の読みを深め、作品の構成の工夫についての自分の考えを持つ。 ・活用形や活用の種類について理解する。 ・百人一首大会に向けて決まり字や競技方法について理解する。
	2	・述語になる単語 用言（動詞・形容詞・形容動詞）		
	3	・百人一首（百人一首大会） ・オールマイティアクティブ		

※ シラバスの内容については、理解度やその他の都合により変更することもあります。